

すくわくプロジェクト

## 「自然」 4歳児 弥生保育園

### ○題材の理由

→当園では木育に力を入れており、自然に触れる機会を作ったり、木を使った活動を取り入れたりしています。その中で4歳児クラスの子どもたちは特に虫に触れるのを好む子、自然物を遊びに積極的に取り入れる子が多い印象があったので、一緒に自然を探究しながら様々なことに目を向けて、感覚を養ってくれたらという担任の思いもあり題材を決定しました。

### ○最初に...

→自然が豊かな公園に行き、そこで自然物を観察し子どもたちがより興味を持った部分をすくわく活動に繋げようと計画しました。子どもたちに気になる物を拾ってもらいと、様々な種類の葉、虫、木などが集まりました。



## ○第一回目 自然物を拡大してみたらどんなだろう？

自分たちが拾ってきた虫や植物などを、書画カメラとプロジェクターを使用して拡大して見てみました。子どもたちは書画カメラとプロジェクターだけが用意されている薄暗い部屋に案内されると「なんか楽しそう...」という少し警戒しつつもワクワクしているような表情が印象的でした。

やり方を説明して自由に行っていいことにしました。自分たちで机に並べられている自然物を手に取って手触りを確かめたり、匂いを嗅いだりしながら書画カメラに映るように置き、拡大したり縮小したりして思い思いに楽しみました。観察をしていると葉っぱを拡大して茎の葉脈を見て、「ここは家に見える！」「ここは虹みたい！」などと話していました。他にも葉ごとに葉脈や手触りの違うことや、セミの抜け殻に穴があることに気がつくもののそれが「なんでだろう？」ということには結びつかずなかつた。



## ○第二回目 葉っぱってよく見るとどのような特徴があるだろう？

第一回目で葉脈について興味を持っていたので、ライトテーブルを使用し、葉脈に注目できるような活動を行いました。又、それを絵にしてアウトプットできる機会にしました。ライトテーブルの上に葉を乗せると「綺麗になった！」と葉脈がくっきりと映し出されたことに喜ぶ姿があり、様々な葉を乗せてしばらく観察が続きました。観察では葉ごとの色の差や葉脈、形などに興味を持っていましたが、いざ絵にしてみると、葉の形には注目して模写をしていたが、観察の中で特に楽しんでいた葉脈に触れて描く子は少なかったです。グループの中で誰かが描き始めることで思い出し、主脈から側脈まで丁寧に描いていました。他には葉の色は緑だけではないということにも気がつけ、ベースとなる緑色に黄色や黄緑を足して色を実際の葉に近付ける姿がありました。



### ○第三回目 秋の自然を拡大して見たらどんなだろう？ 紅葉ってなんだろう？

季節が変わり、秋ならではの自然物として「すすき」「どんぐり」「もみじ」「いちよう」などを用意しました。もみじ、いちように関しては紅葉前と後の2種類を用意しました。興味をもつ子が多かったのはすすきとどんぐりでした。すすきは友達同士で「これはお米...？」と話すときに対して「ササキだよ」と、おいしい答えをしたり、「でも虫にも見える...」と友達同士で話をしたりしながら話を膨らませていました。どんぐりは穴が空いているのを発見し、「虫に食べられている」、「虫いるかな？」との話から「割ってみたい」との話があった。割って見たところ中から幼虫が出てきて、そこからこれが何の虫なのかを図鑑で調べるところまで発展しました。紅葉については同じ種類でも色の違うということに気がつくものの、「色が違うのはなんだろう？」という部分には至らなかったです。



○第四回目 同じ葉っぱでも色の違いがあるのはなぜだろう？  
秋・冬の葉っぱはどのような特徴があるのだろう？

第二回目同様にライトテーブルを使用しながら秋・冬の葉を観察し、後に絵を描きアウトプットができる機会を設けました。子どもたちには最後に第二回目に描いた絵と、第四回目に描いた絵を見比べながら、なんで葉の色は変わるのか？と問いかけてみました。問いに対して子どもたちからは「季節が変わったから」「秋になると色が変わることが決まっている」「寒くなるから」「葉っぱも段々年を取ってきたから」などと子どもならではの面白い意見が出ました。他にも観察中に葉の硬さの違いにも気がつく子がいました。保育士がなぜだか聞いてみると「チョコと一緒にだ！寒いと硬くなって、暑いと溶けちゃう感じじゃない?!」というかわいらしい意見も出ていました。どの意見も子どもたちなりに探求して考えた素敵な回答となりました。



## ○すくわく活動を行ってみて

→すくわく活動が全日程終了してから、自然物を採取した公園へ行ってみました。最初の散策ではたくさんの自然物を採取することを楽しむ子がほとんどで、「なんでだろう？」と疑問に思ったことを言葉にする子は極少数でしたが、今回の散策では「冬なのに緑の葉っぱがある！」「冬って葉っぱ茶色じゃないの？」と子どもたち同士で疑問に感じたことを言葉にして話し合う姿がありました。他にもきのこに注目して「なんていうきのこかな？」と気にかけて、帰園後に嬉しそうに図鑑で調べる子もいました。勿論子どもたち自身が単純に成長した部分もありますが、子ども達の探求する力がすくわく活動を通して育ったおかげなのではないかと感じました。保育士側も日々の保育で子どもたちの探究を意識した声掛け、環境作りを意識するようになったことも大きな要因だと感じます。

## ○次年度に繋がる取り組み

→当園ではすくわく活動を通し、もっと子どもたちの身近に自然があったら探究心の育ちに繋がるのでは？という意見から園庭の一角を整備して自然物を植えました。今は整備している際中で利用することができていませんが、ゆくゆくは捕まえた虫を離す場所にしたり、子どもたちと植物の観察をしたりする予定です。素敵なお庭ができていますので子どもたちは利用できるのを楽しみにしています。

